ＪＡＭ（ジャム）は、Japanese Association of Metal, Machinery, and Manufacturing Workersの略です。「M」は金属、機械、製造業・モノづくりの三つの意味を表します。
E−mail　アドレス
tokyo@jam-tokyochiba.jp

JAM東京千葉 news

第274号　通巻785号
発行所　ＪＡＭ東京千葉
〒136−0071
東京都江東区亀戸1−10−9
☎03−5875−4073
FAX03−5875−4074
編集責任者　清野　彰
毎月１回１日発行　購読料一部65円(税込)
組合員は組合費の中に含む
1959年11月４日　第３種郵便物認可

JAM東京千葉2022夏季一時金回答状況

2022年７月29日10：00時点

一時金		単組数					年間一時金				半期一時金（年間の半期換算含む）			
			要求	回答	集約	妥結	単純平均		加重平均		単純平均		加重平均	
							金額	月数	金額	月数	金額	月数	金額	月数
全体		154	110	118	115	113	1,472,758	4.72	1,867,376	5.69	702,127	2.22	937,189	2.86
地協	房総	17	13	16	16	16	1,502,265	4.76	1,568,602	5.31	646,479	2.15	757,882	2.49
	総武	15	15	15	15	15	1,537,875	5.11	1,960,686	6.19	709,721	2.28	957,335	3.02
	中央	57	28	32	31	31	1,540,094	4.95	1,914,139	5.89	746,234	2.40	944,035	2.91
	城南	30	24	23	21	19	1,380,266	4.45	1,761,117	5.09	701,852	1.99	945,123	2.78
	東多摩	14	11	13	13	13	1,215,027	4.38	1,260,702	5.01	789,037	2.60	997,338	2.94
	西多摩	21	19	19	19	19	1,435,947	4.27	1,789,233	5.06	641,751	1.96	865,079	2.48
規模	100人未満	37	22	22	22	22	1,262,333	4.42	1,143,506	4.30	510,033	1.73	491,169	1.75
	100−299人	49	33	36	34	33	1,098,819	3.99	1,068,640	3.93	553,166	2.00	558,619	2.06
	300−499人	9	6	8	8	8	1,716,301	4.13	1,775,418	4.80	756,315	2.07	748,336	2.17
	500−999人	23	17	19	19	19	1,347,704	4.75	1,322,938	4.58	687,740	2.34	675,259	2.32
	1,000−2,999人	18	17	18	18	18	1,548,266	5.10	1,612,926	5.16	835,686	2.55	925,047	2.76
	3,000人以上	18	15	15	14	13	1,891,846	5.70	1,968,106	5.94	960,237	2.91	982,095	3.00

JAM東京千葉 2022夏季一時金

半期937、189円（2・86カ月）

労働条件で57項目前進回答

ＪＡＭ東京千葉の2022夏季一時金は5月26日を統一要求日、6月16日を統一回答指定日として取り組みが進められています。7月29日10時現在118単組が回答を引き出しており、年間一時金の取り組み単組の単純平均が1,472,758円（4・72カ月）・加重平均が1,867,376円（5・69カ月）、半期の単純平均が702,127円（2・22カ月）、加重平均が937,189円（2・86カ月）となっています。半期計算の前年同一単組比較は単純平均が21,512円（0・09カ月）、加重平均が43,590円（0・14カ月）のプラスとなっています。

コロナ禍の影響もあり2020年、2021年は大きく落ち込みましたが、2022年は全体的に昨年水準を上回っています。しかし、100人未満の中小単組では半期の加重平均が491,169円（1・73カ月）と2カ月を下回り、コロナ禍の影響で低下した一時金水準の回復ペースが遅れております。

春闘期に労働条件の改善に取り組む単組の状況は、48単組が161項目の要求を提出し、これまでに57項目について前進回答を引き出し、49項目については継続協議となっています。賃金に関して24項目、労働時間に関して14項目、の前進回答が引き出されています。

皆様の夏季一時金ならびに労働条件改善の取り組みに対しまして心より敬意を表します。

【書記局　高田】

労働条件の取り組み

2022年７月29日10：00時点

要求項目	JAM東京千葉全体			
	要求単組	結果		
	48	前進	継続	不可
賃金	54	24	11	18
退職金	5		2	3
定年・継続雇用	19	3	11	3
パート・有期雇用				
労働時間	44	14	14	12
労働協約	8	5		1
安全衛生	4		2	2
育児介護・母性保護	7	3	1	2
職場改善	20	8	8	4
合計	161	57	49	45

男女格差の無い社会の実現に向けて

JAM東京千葉
副執行委員長
宮岡　優子

皆様はジェンダーギャップ指数をご存知ですか?男女格差を評価する指数で「経済・教育・健康・政治」の4分野で評価され、「0」が不平等「1」が平等を示し数値が小さいほどギャップが大きい。先日、今年の指数が発表され日本は0・650で146カ国中116位（前年は156カ国中120位）。第1回の2006年（0・645の80位）と比べると、スコアは上昇したが順位は後退している。分野別では政治が0・061の139位だった。参議院選でも女性国会議員の少なさは報道されていたので皆様も実感があるだろう。経済も0・564の121位で管理職の女性割合や収入格差が目立っている。家庭での役割分担・社会構造は変わりつつあるが、非正規で働く女性の割合は高くコロナ禍の影響も受けている。

JAMはどうだろうか?女性参画率向上は喫緊の課題とし、各方面でご努力頂いているが大きく進んでいるとは言い難い状況だ。女性参画を進めるにはクオーター制や各単組のご理解だけでなく、個々を取り巻く、育児・介護・就業・社会環境などさまざまな視点での整備が必要であり、同時に活動を見直し女性自身が参画したいと思える活動が不可欠だ。

私たちには、私たちの村田きょうこ参議院議員・芳野友子連合会長がいる。お二人の活動を支え社会を変えるためには、環境が変わるのを待つだけではなく私たち自身も声を上げる行動が近道になる。その一歩一歩が自ずと男女格差の無い社会に近づき、言い換えれば誰にでも優しい社会の実現がそこにある。皆様の更なるご理解・ご協力をお願いしたい。

本当のスタート、これから

村田きょうこ参議院議員　メッセージ

当選証書を手にし、議員バッジを胸につける村田きょうこ参議院議員

7月10日の参議院議員選挙で接戦を勝ちぬき、初当選することができました。当選がゴールではありません。これからが本当のスタートです。7月15日には当選証書をいただきました。みんなでつかんだ、みんなの当選証書です。

思い返しますと、昨年の第38回の中央委員会でご推薦いただいて以来、ＪＡＭの皆さんと共に歩み続けたこの1年はかけがえのないものでした。

全国の単組訪問では、ＪＡＭの組合員さんの職場での悩みから将来の悩みまで多くの悩みごとをお聞きしました。それと同時に皆様が作られる製品がどれほど日本社会を支えているのかも分かりました。ものづくりの現場を守ることが、皆さんの生活を守ることであり、日本を守ることなんだと改めて実感することができました。そのためには参議院議員として6年間腰を据えて政策実現に取り組みたいと思います。

ＪＡＭの掲げる「価値を認め合う社会へ」では、不当な買いたたきを防止し、適正な価格転嫁が行える産業政策を推進しています。私がその一役を担えるよう早急に動きます。

私は全国をまわる中で政治を身近に感じてもらいたいと訴えてきました。今回の参議院選挙の得票率からも、決して政治への関心が高まったとは思えません。若い人たちがより政治を身近に感じてもらうためにも、例えば村田きょうこ事務所に来ていただき国会見学をしていただく、そこで困りごとを話していただくなど、今後も皆さんとの対話の機会を積極的に作っていきたいと思います。

私、村田きょうこは皆さんの生活、人生、そして日本のものづくりを守るため、ＪＡＭの皆さんと今後も一緒に歩み続けます。ものづくり産業・現役世代・女性の代表として、これまで全国でいただいた声を必ず国政の場に届けてまいります。

結びに、皆さまのますますのご発展とご健勝をご祈念申し上げ、私のメッセージとさせていただきます。

訂正・おわび

7月号（第273号）、1面最下段の「あせりや『慣れ』に注目　2022年度　安全衛生標語決まる」の記事で、No.10に「文字弘行」さんとありますが正しくは「文字博之」さんでした。お詫びして訂正致します。

地引き網、大漁に歓声

ファミリーフェスティバル　4年ぶりの開催

JAM東京千葉ファミリーフェスティバルが7月23日、千葉県九十九里浜の「網元かね仙」で開催されました。この日のメインイベントである地引き網は大漁で、子どもだけでなく、大人からも歓声があがりました。ファミリーフェスティバルは新型コロナウイルス感染症の影響もあり、2018年以来の開催となりました。

飛びはねる魚に「すごい！すごい！」の歓声があがった

フェスティバルは房総地域協議会・佐藤清人議長の司会進行のもと、スタート。和田洋・執行委員長代行は開会あいさつで「このファミリーフェスティバルはコロナ禍の影響で2018年以来の開催となる。感染症対策をしっかり行ったうえで、安全第一、ケガのないように行動してほしい」と注意喚起を行いました。

その後、かね仙から「風が出てきたから早めにやった方がいい」とアドバイスがあり、参加者は予定よりも15分ほど早く海岸に移動し、地引き網に移りました。

掛け声に合わせ、協力し合いながら網を引く参加者

漁船が沖に出ていき、網を仕掛けた後、参加者はほぼ均等に左右に分かれて、網を引きました。参加者は掛け声に合わせ、協力し合いながら網を引きました。子どもたちも暑さに負けず、一生懸命に網を引きました。沖合200mに設置された網を、力いっぱい引っ張り上げること約30分。イワシやアジ、サバなど合わせて数百匹の魚が水揚げされ、大漁という結果に。網を引き上げた時の魚がバタバタする様子を見て、子どもたちだけでなく、大人たちも興奮し、「すごい！すごい！」の声があちこちからあがりました。子どもたちは自分で採ったという満足感も手伝い、とても喜んでいました。水揚げされた魚はトラックに荷揚げされ、「かね仙」に運ばれました。

左右から引っ張った網をたぐり寄せ、魚を追い込む

子どもたちに大人気だった千本釣り大会

懇親会ではそれぞれの家族が思い思いの時間を過ごし、海の幸を味わいました。コロナの影響でスイカ割りなどができない中、子ども行事「千本釣り大会」が行われました。子どもたちは歓声をあげ、千本釣りを楽しんでいました。同時に、水揚げされた魚は希望者に渡されました。

参加組合数15組合、大人子ども合わせて127人が参加しました。

【書記局　高山】

鶴に祈りを込めて

日本電子連合労働組合　岡本　久子

8月は終戦記念日があり、当時は広島や長崎に原爆投下や、全国各地で多くの方が被災されました。私の両親は戦争を知っている世代なので、体験談を色々聞かせてくれました。

母は渋谷の空襲から逃れる為、祖父の実家である西多摩地区まで、祖父が出兵中だったので、祖母と姉妹（4人）だけで歩いて移動をして本当に大変だったそうです。父は農家の生まれで、戦時中は芋類が主食だったのでジャガイモが嫌いになり、実家のカレーはジャガイモなしのカレーでした。戦争報道がされる度、平和について考えさせられます。

そんな時JAMの機関紙に広島「折り鶴募集」記事が目に留まり、周りの仲間に声を掛けたところ、快く賛同してくれ、一緒に折り鶴を送ることが出来ました。コロナ禍となり、平和式典開催はありませんでしたが、「コロナ終息・世界平和」を祈りながら、家族や仲間との千羽鶴活動は毎年恒例となりつつあります。折り鶴にも個性があり、合体作業は大笑いしながらの楽しい作業時間となってます。そんな仲間がいてくれて嬉しく思います。

今年は、ロシアのウクライナ侵攻という大きな出来事もあり、より一層世界平和と日々の幸せを祈りながらの、折り鶴活動が終わったばかりです。改めて、日本は戦争をしない国、平和な世の中になることを祈るばかりです。

With
JAM東京千葉女性協議会

JAM東京千葉・ボランティアセミナー

障害は社会にある

JAM東京千葉・青年協議会は2022年7月30日（土）港区・友愛会館をメイン会場として、初めての試みとなるJAM東京千葉・ボランティアセミナーを開催しました。講師の日本財団パラスポーツサポートセンターの田口亜希様は講演の中で「障害・障碍・障がいなどの表現方法について、よくご質問をいただきますが、大切なのは表現の方法ではなく、障害が人にあるのではなく、社会にあると認識することだと思います。障害者と健常者が共生するには、社会に今どんな障害があるのか。そしてその障害を解決するにはどうしたら良いのかについて全員で考え、アクションを起こすことが大切なのだと思います」と訴えられました。

講演内容について真剣に耳を傾ける参加者

本セミナーはコロナ禍となり、今まで実施していた西麻布事業所（東京）や不二学園（千葉）でのボランティア活動が出来なくなったことを受け、JAM東京千葉・青年協議会がボランティアとダイバーシティの意義について再確認しようということから、初めて開催し、参加者からは大変好評な感想を数多くいただきました。

【書記局　高田】

ご自身の経験も踏まえながら講演される田口様

ＪＡＭの仲間の商品のご紹介！

ＪＡＭ東京千葉加盟組合

シチズン・システムズ労働組合の商品

～９月末までの期間限定！～

ＪＡＭ様特別価格

UV除菌空気清浄機（APUA910）

■UV-C LEDがウイルスや細菌を抑制
■会議の飛沫を上部から吸引
■集塵・脱臭・PM2.5まで解決
■使用奨励：～８畳まで
■会話を妨げない消音設計
■直径170mm×高さ255.5mm

※その他感染予防対策品や記念品手配、会議・旅行手配等、取扱しております。

CITIZEN

お問合せ・ご注文は

JAMトラベル＆サポート株式会社

〒105-0014　東京都港区芝2-20-12　友愛会館 16F
TEL. 03-3457-9932　FAX. 03-3457-9935

2022年度　JAM東京千葉

無料法律相談

第1・第2・第3土曜日の3回開催です

不動産売買、金銭トラブル、交通事故、医療過誤、相続、離婚など……

法律問題でお困りの方、お気軽にご相談ください。

9月3日（土）　東京共同法律事務所　濱本凌汰 弁護士
東京都新宿区新宿1−15−9 さわだビル5F
☎03−3341−3133
★JR新宿駅東口より徒歩15分

9月17日（土）　西東京共同法律事務所　平川亮太 弁護士
東京都立川市曙町2−31−15
☎042−519−3120
★JR立川駅下車徒歩５分

9月10日（土）　JAM東京千葉事務所　阿部健二 弁護士
東京都江東区亀戸1丁目10−9
03−5875−4073
★JR総武線「亀戸駅」北口より徒歩7分、東武亀戸線「亀戸駅」より徒歩8分

10月1日（土）　東京共同法律事務所　木村　壮 弁護士
東京都新宿区新宿1−15−9 さわだビル5F
☎03−3341−3133
★JR新宿駅東口より徒歩15分

★弁護士には、守秘義務があり、相談者氏名・相談内容などを他のものが知ることはありません。
★会場・担当弁護士が変わる場合があります。
★詳しくは、当該組合もしくは、JAM東京千葉・総務部（☎03-5875-4073）までお問い合わせください。

※申し込みは１週間前までにあなたの組合まで。

※8月の無料法律相談はありません